

2005年8月1日。長年の夢だった留学を実現させ、私はドイツのフランクフルト空港に降り立ちました。その時の私

一言だけ
口に出せたのは「ありがとう」の



語学学校の友達を寮でパーティー（中央の右）

留学生レポート

私の留学体験記 in ハイデルベルク

総合教育課程生涯学習コース 4 回生

山根 絵美

from Germany

は、道案内をしてもらうにもドイツ語を
まともに話すことができず、口に出せた
のは「ありがとう」の一言だけ。「こんな
状態で、1年間やっていけるのだろうか」
と、不安で仕方なかったものです。

■国際色豊かなクラスや舞台制作

最初の半年間は、語学力をしっかりと身
に付けるために大学の語学コースに通い
ました。クラスはいろいろな国からやつて
きた留学生たちで構成されており、単に
ドイツ語を学ぶだけではなく、授業を通
して互いの国の文化などを話し合うなど、
国際色豊かなものでした。

ある程度の語学力も付いた残りの半年
は、教育学の授業や日本語の授業に参加
しました。また、日本語を勉強している学
生さんと日本人留学生の合同で演劇をす
るという企画にも参加し、お互いに日本語、
ドイツ語を交えながら一つの舞台を作り上
げるという貴重な体験ができました。

■遊び、飲み、踊り、学んだ1年

とはいえ、真面目に勉強ばかりしてい
たわけではありません。ドイツといえば
ビール！ということでビールを飲みあ
さったり、ヨーロッパの国々を旅行し、世
界遺産や美術館などに足を運んで見聞
を広めたりと、大いに遊び、大いに飲み、
大いに踊った1年でした。

楽しい事ばかりではなく辛いことも
あったけれど、ドイツでの生活は私を大き
く変えてくれ、さらなる一歩へと導いてく
れました。この1年間の留学生活で出会っ
た人々、訪れた場所、経験したこと全て、
かけがえのないものとなりました。心か
ら感謝しています。

■韓国との出会い

私が初めて韓国という国に出会ったの
は、高校生のときでした。私の母校では
韓国語の授業があり、修学旅行も韓国で
したので、自然と韓国という国を身近に
感じるようになっていったのです。その当
時は「面白い国だな」という程度の認識
でしたが、縁があったのか、2004年8
月から1年間、大学間学生交流協定を利
用して韓国の嶺南大学に留学することに
なりました。

■言葉の壁

高校で韓国語の授業があったとはいえ、
留学当初は挨拶程度の語学力しかありま
せんでした。韓国語ができないためにコ
ミュニケーションが取れず、悔しい思いを
したり、「何で私は韓国に来たんだ」と悩
み込んでしまうこともありましたが、しか

韓国に留学して

大学院教科教育専攻 2 回生

佐伯 朋子

from Korea

■留学を終えて

韓国での生活は、言葉を始めとして、
様々な壁にぶつかってばかりでした。しか
し、留学を終えてみると、その壁こそが異
文化に触れるということなのだとか分かり、
1年という非常に短い時間でありながら、
とても充実した日々を過ごせたと感じてい
ます。これからも、奈良教育大学と韓国
嶺南大学の交流が続き、一人でも多くの学
生が旅立つことを願っています。

し、その悔しさをバネに必死で韓国人の
輪の中に入り、少しでも多く韓国語に触
れるようにしていると、徐々に韓国語が
理解できるようになっていきました。
韓国人の友人と韓国語と日本語を教え
あったり、一緒に遊びに出かけたりして過
ごす時間は、私にとって教科書と向き合っ
て勉強するより何倍も効果的だったよう
で、半年も経つと、韓国語での会話が苦
にならなくなりました。



韓国語クラス終了式にて（左側）

留学生レポート

留学生レポート

私が見た留学

日本語・日本文化研修留学生
(ドイツ・ハイデルベルグ大学)

ミットマン クリストフ

from Germany

ドイツ・ハイデルベルグから
日本・奈良へ

皆さん、こんにちは。はじめまして。私はミットマン・クリストフと申します。よろしく願います。

2006年10月、交換留学生としてドイツのハイデルベルグ大学から奈良に来ました。私の大学では、外国語を勉強

すると、その言葉が母語の国に留学するのが望ましいのです。私は日本語を勉強しているので、日本に行くのは当たり前ですので奈良にしました。

異文化の国で暮らしてみよう

日本に来て以来、今は8カ月ぐらいたが過ぎて、その間いろいろな経験ができて、すごく面白い時期でした。学校の先生や学生と一緒に旅



正倉院の留学生体験展覧会で

行をしたり、自分にもたくさん旅をしました。もちろん、授業も受けたんですが、本当に魅力を感じるのは自分自身のために興味深いことについて勉強しながら日本語を学ぶことです。

だが、一番印象的なのは異文化の国で暮らすことです。ヨーロッパなら、外国に行ってもその国と自分の国の文化は似ていますのである程度まで日常生活も同じですが、一方、日本ではそれはまったく違いますので、ここに住むことは新しい経験です。

異国を知ることと母国を知る

長い間外国に住んでいると、両国の状態を比べる機会がいっぱいあり、よく「ああ、そうなんや」といった感じはありました。すると、日本についての意見だけではなく、ドイツのことについての意見もちょつと変わりました。

まとめると、いろいろな国の人々との出会えたり、異なる考え方をたくさん聞くことができるので、成長するためにも留学は役に立つというのが私自身の意見です。

留学生生活を振り返る

月日の経つのは早い。今年で奈良教育大学に入って2年目を迎えました。振り返ると、この2年間は私の人生にとって、かけがえのない貴重な2年間でした。

「ただただ勉強したい」「学位を取りたい」という好奇心と功利心を持って日本留学に来た私は、奈良教育大学の先生方の指導の下で学問の厳しさを知り、勉強することは単なる知識や学位の獲得だけではなく、真理を追究し、自分を鍛えることであると分かるようになりました。

勉強には問題を解決できなくて、解決口を探るために、迷い、疲れの時もあります。しかし、先生はそのたびに支えてくれました。絶望することなく、苦勞を厭わず、挫折を恐れず、孤独に耐えられる強い精神力が必要だということを教えてくれました。勉強することは苦しいかもしれま

せん。しかし、このような苦勞と引き換えに、学問は私に大きな喜びと充実感を与えてくれます。

留学生生活の楽しさ

奈良教育大学での生活では、面白くて楽しいことがたくさんあります。毎年、大学は見学旅行に参加することや日本の伝統芸能などを体験するチャンスを与えてくれます。それで有意義な活動に参加して日本の文化に触れたり、自然を感じたりすることができるようになりました。本当に感謝しております。

日本と中国の文化交流に

このような奈良教育大学での留学生生活は、自分を変えて、自分の人生の中でかけがえのない宝物になり、非常に満足しています。将来、自分が帰国し、日本と中国の文化交流のために貢献することで、恩師に、奈良教育大学に、そして日本の皆様に恩返しをしたいと思います。



言語・社会コースのクラスメートと(2列目の左から3番目)

留学生レポート

人生の中のかけがえのない宝物

学校教育教員養成課程言語・社会コース2回生

韓 浙竹

from China